

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教法人日本バプテスト連盟総務部

「絆」はかわらずに 東日本大震災被災地支援委員会 委員長 吉高叶

全国の諸教会・伝道所のみなさま。東日本大震災被災地支援の活動につながり、祈り、支え続けてくださいますこと、心より感謝いたします。現地支援委員会を構成し、教会の宣教の業として仮設住宅へ身と心を携えて訪問活動を続けてこられた東北地方連合の諸教会にとって、どれほど励まされてきたことでしょうか。ありがとうございました。

今年もまもなく3.11が巡ってきます。大震災発生から丸5年です。すべての被災者にとって「原状回復」は叶いませんでした。震災という試練を経て、むしろ新たに再生する「回復」（かいふく）に至ることも、ほとんどの方々にとっては届かないことでした。大多数の方々は埋められない喪失感と、復興が遅れることによって新たに背負った悔しさをひきずって、それでも立ち上がっていきこうとし、あるいは現状を耐え忍ぼうとされています。現地の教会は、5年近く仮設訪問を継続しながら、そうした「被災と人生」にまつわる重い事実と直面して来られました。関わりつつ祈る、その祈りも苦悩を伴うもの

であったでしょう。

いくつかの地域では復興住宅の整備に伴い仮設住宅から転居される方が増え、入居者戸数が1/3に減り、一時は「お茶っこ」の会場として使用された集会所が閉鎖される所も出てきました。そうした中、次第に、支援のあり方も変化を求められるようになってきています。すなわち、集会所訪問型（お茶っこ交流型）から個別の方々への訪問型（寄り添い型）へと変わっていく必要が生じています。これからの支援スタイルは「何月何日、〇〇仮設にて、このような集いをもちます」といったものではなく、被災生活5年という時間を重ねて生じてきた事実であり現実ですから、その現実の中での関わりを模索し、継続していくことを現地教会の皆さんは選り取りついでいていこうとしています。どうぞ引き続き、お祈りとご支援をお願いします。

なお原発課題、放射能被曝への対応につきましては、まったく先が見えない状況です。高線量地域で生きている現地の教会、その現場で起こってくる「必要」につきましては、これからも皆さまの祈りとご支援とを心よりお願い申し上げます。

マイナスからのスタート（原発課題班コラム） 大城戸一彦（事務局長）

「国は避難指示を解除して終わりかもしれないが、俺たちはそこからスタート。マイナスからのスタートなんだ」

ある新聞のコラムに載った、放射能汚染にさらされた地域で農産物の「復権」に挑み続けている方の言葉です。実際、避難解除、帰宅指示がでて、地域コミュニティーの崩壊や医療サービス、交通インフラ等の復旧が十分ではない中では、農業だけではなく、暮らしそのものをマイナスからスタートさせなければならないのです。

新聞記事によると2015年11月時点で自宅から離れて仮設住宅で生活する人は、福島県だけでも10万3千人に上るとのことです。今も、福島第一原発周辺など6市町村全域と3市町村の一部に政府の避難指示が出されている状況の中、政府は2017年3月までに、日中の立ち入りが許されている地域については避難指示を解除する方針で、これにより66%、4万6300人が元の町に戻れるとの見通しを示しています。しかし、7市町村に残る、空間線量が高い帰宅困難区域は解除の見込みすら立っていません。また、同記事による福島県立医大の2014年の調査では、避難指示区域からの避難者3万8千人のうち、40%近くの方が放射能被ばくにより自身の健康に悪影響が及ぼされる、50%の方が子や孫へ悪影響が及ぶという不安を持っているとのことです。

政府与党の復興加速化本部の幹部は「住宅提供があるから戻らない住民もいる。いつかはやめなければならない」という、まるで「帰れない境遇に置かれた住民」に問題があるような発言をしています。

国は「除染をすれば住民は戻る」ことを前提として除染を進めていますが、故郷に帰る人の多くは高齢者である事実から、医療や介護の充実なども前提に加えなければ、文字通りマイナスからのスタートを住民に強いることとなるのです。

郡山コスモス通り教会がかかわりを持たせていただいている緑ヶ丘仮設住宅に避難されているある町の2014年度の町民意識調査では、①現時点で戻りたいと考えている【11.9%】、②判断がつかない【30.7%】、③戻らないと決めている【49.4%】、④無回答【8%】であり、①②は減少、③④は増加しています。

町民の意向が揺れ動いている状況が窺われます。

この町は、2015年3月に放射能汚染からの避難指示区域として右記のように3区域に分断されており、全地域の指定解除はかなり困難な状況であるといえます。この状況を心に留め、お祈りください。



3.11を忘れない チャリティコンサート

を開催します

- ◇ とき 2016年3月12日（土）
14：00～15：40
- ◇ 会場 相模中央キリスト教会
- ◇ 主催 相模中央キリスト教会
(神奈川県大和市中央林間4-24-6)
- ◇ 協力 日本バプテスト連盟宣教部
教会音楽室 および
東日本大震災被災地支援委員会

◇ プログラム

賛美歌：「アメージンググレイス」「善き力にわれ囲まれ」、
宗教曲：『メサイヤ』（ヘンデル）より、『マタイ受難曲』（バッハ）より、「花は咲く」、「ワインディング・ロード」

◇ 出演

ソプラノ…石橋香緒里（相模中央キリスト教会会員）
ソプラノ…江原美歌子（相模中央キリスト教会音楽主事）
テノール…豊原奏（栗ヶ沢バプテスト教会会員）
バス……飯塚道夫（青葉キリスト教会会員）
伴奏……十時節子（日本バプテスト東京第一教会会員）

お問合せは相模中央キリスト教会 046(274)3708 まで

区域	面積 (約)	人口割合 (約)
帰宅困難区域 (年間積算放射線量：50mSvを超える)	10Km ² (15%)	4,800人 (30%)
居住制限区域 (年間積算放射線量：20mSvを超え50mSv以下)	34Km ² (50%)	9,800人 (60%)
避難指示解除準備区域 (年間積算放射線量：20mSv以下)	24Km ² (35%)	1,400人 (10%)

震災募金にご協力ください 2015年度標額：1400万円（国内・国外） 2016年1月実績：840万円（アト560万円）

<2016年1月31日募金者（受付順、敬称略）> 77名(口)の方々から献げられました。心から感謝申し上げます。

塩山要子、古賀、仙台教会組織60周年復興コンサート、目白ヶ丘、丸亀城東町、奈良、佐世保、福岡南、林 薫、大阪、平塚、直方、江波、中野、光の丘幼稚園、福岡、東福岡幼稚園、久保祐子、京都、恵星幼稚園（春日原）、調布、大分、浦和、福岡市民クリスマス実行委員会、横浜戸塚、鮫、伊集院、東京第一、鹿児島、神愛幼稚園、富野、広島、神戸、四日市、静岡、日野神明、府中、筑波、西南学院、那覇新都心、太田、福岡 浩隆、PEACHTREE CORNERS BAPTIST CHURCH INC、宝塚、西南女学院高等学校、めぐみのその幼稚園、中野、港南めぐみ、調布、小倉、伊丹教会 乳児クラス「さくらんぼ」、市川大野、匿名、かたえ、福岡ベタニヤ村、大井教会 あけぼの幼稚園、福岡西部、札幌、筑紫野南、有田ゴスペルクワイア 倉本明美、常盤台、市川八幡、南光台、花小金井、田隈、シオン山、伊集院幼稚園、福岡城西、仙台長命ヶ丘、鳥飼、前橋、東京女子大学キリスト教センター、春日原、大宮、神戸伊川、大富、山川